

佳作

「ありがとう」

ぼくには、98才の曾祖母がいる。今は祖母と二人で暮らしている。時々、祖母の家に遊びに行くと祖母が、曾祖母の身のまわりの世話をしているたびに、「ありがとう。」と言っている。

とにかく、一日に何度も言う。足腰が弱いのでソファから立ち上がる時に手をかしてあげた時、トイレまで連れていつてあげた時、食事を運んでいった時、洋服を着がえさせてあげた時、数えきれないぐらい「ありがとう。」という。その「ありがとう」という時には必ず、両手をあわせて軽く頭を下げながら言う。とても、ていねいで気持ちのこもったあいさつに見える。

曾祖母は、週に4日間、デイサービスに行っている。デイサービスに行くようになってから、特に「ありがとう。」と言う回数が増えたと祖母が言っていた。

曾祖母が、介護士の人たちにいかに多くのお世話になっているかがよくわかる。そのたびに手をあわせて「ありがとう。」と言っているにちがいない。

大阪府

大阪市立海老江東小学校六年

濱田 祐英

ぼくは、そうめんが大好きだ。夏中、毎日のように冷やしそうめんを食べている。食べているぼくは、涼しいけれど、つくっているお母さんは汗だくになっている。

ある日、お母さんが

「ちよつとこつちにきてごらん。」

と言いながら台所から手まねきした。ふつとうしているおなべの前に立つと下から熱風がくるみたいですごく暑い。そんなところで、ごはんをつくっているのだから、少し苦手なものかでも、食べなきゃと思った。

毎日、ごはんを食べ、学校へ行き、勉強して、友達と遊ぶ、ふつうのことができることにも感謝の気持ちがないせつということを曾祖母の「ありがとう。」で気がついた。

「ありがとう。」という言葉は、人と人をつなぐかけ橋のような言葉だ。ちよつとしたことにも「ありがとう。」と言えたら、言われた方も、言った方もすごくいい気持ちになれる。手をあわせる曾祖母のようにいつも、感謝の気持ちを忘れずにいたいと思った。